日本キリスト教会第73回大会（2023年10月18日～20日、於：柏木教会）に際しての私たちの祈りと願い

私たちは、今この時にもイスラエルとパレスチナ自治区･ガザにおいて、またウクライナとロシアにおいて、多くの血が流され、ジュネーブ条約を始めとする国際人道法に反する残虐行為が行われていることに心を痛め祈りを合わせます。

思えば、私たちの属する日本キリスト教会が1951年に第1回の創立大会を開催したのは朝鮮戦争のさなかでありました。あのとき私たちは、かつて神社参拝や日本語の使用を強要し、大日本帝国の威を借りて在朝･在日の朝鮮基督教会を併合した自らの過去を忘却し、世界戦争の渦中に巻き込まれていた朝鮮半島（韓半島）の兄弟姉妹たちの苦境について顧みることができませんでした。また、アメリカの占領下に移された沖縄、奄美の兄弟姉妹たちに対しても無関心なままでした。私たちは、戦前戦中と変わらぬ、日本人至上主義の枠組みの中で、新たな教団の歩みを始めたことについて、悔い改めをもって思い起こすほかありません。

このような苦い過去を顧みつつ、私たちは、以下の願いと懸念を表明し、人類のおごりと高ぶりによって破滅に向かいつつあるように見える世界において、悔い改めの実を結び、神の国の到来に備えて、祈りを合わせたいと願います。

１．イスラエルとハマスは、宗教的、政治的、経済的利害を超え、平和を願う諸国民に信頼しつつ、一刻も早く、停戦してください。私たちは同じアブラハムの神を仰ぐ者として、パレスチナにおいて正義と平和が証しされることを祈ります。

１．ウクライナとロシアは、人道に反する兵器の使用を止め、話し合いによる解決に向けて、知恵を尽くしてください。特に私たちは、唯一の原爆被爆国であり、かつチェルノブイリに匹敵する原発事故の被災国に住む者として、戦術核兵器や劣化ウラン弾が使用されないよう心から願います。

１．日本政府は、沖縄の人々の民意に後押しされた県知事の決断に反して辺野古の新基地建設を暴力的に推進するのをやめてください。大阪府における万博誘致の失政を国費で補おうとする動きがある中で、沖縄に対して苛酷な強制代執行を行うのは、戦前から継続する沖縄差別に他なりません。

１．岸田首相と尾久参院議長は、2023年10月17日から行われている靖国神社秋の例大祭において真榊を奉納し、さらに西村経産大臣、新藤経済再生担当大臣、

高市経済安全保障大臣は、時を前後して参拝の挙に及びました。憲法に明記されている政教分離原則に悖るこのような愚挙により、アジア諸国の戦争犠牲者とその遺族はもとより、日本国内における私たちのようなキリスト者も、国家によって強いられた戦死が美化・正当化され、政治利用されることに怒りと憂いを覚え、戦争準備が着々と進められつつあるのではないかという懸念を深めています。政権を預かるものたちは、公人として靖国神社と関わることは止めてください。

１．政府は 10 月 13 日、世界平和統一家庭連合（旧統一協会）への解散命令を東京地裁に請求しました。私たちは、当該団体がカルト集団であり、さまざまな詐欺行為によって多くの信者の家庭を崩壊させ、ひいては昨年の安倍晋三元首相の暗殺にまで結びついたことを知っています。さらに、自由民主党をはじめ、多くの政党がこの団体と癒着し、持ちつ持たれつの関係にあったことも周知の事実です。しかし、これらの行為は、関わった政治家との関係も含めて、刑法、民法、商法などによって裁くべきであり、宗教法人の解散によってうやむやにできる事柄ではありません。とくに、私たちは、今回、不透明で曖昧な手続きや基準によって宗教法人の解散命令が請求されたことに対し、近い将来、政府があらゆる宗教に圧力をかけ、生殺与奪の権を握ることのできる恐怖政治へと暴走するのではないかと憂えています。

私たちは、日本キリスト教会第 73 回大会に提出して審議未了になった建議案について、不完全な形でも一刻も早く公にする必要があると考え、議場での議論を加味して、大会靖国神社問題特別委員会名において、この声明文を世に問うことに致しました。私たちは、過去の罪を悔い改め、神がつくりたもうた諸国民、諸民族とともに正義と平和を実現するために祈り、行動すべきことを覚えます。願わくは、教会のかしらなる主が、私たちを造りかえ、平和をつくりだす民としてくださいますように。

2023 年 10 月 20 日

日本キリスト教会大会靖国神社問題特別委員会
委員長　小塩海平
書　記　粂　広国
会　計　井上　豊
委　員　川越　弘
委　員　芳賀繁浩